



犬・笑・暮だより vol.73

ワンちゃんにも起こる椎間板ヘルニア



「椎間板ヘルニア」という病気をご存知でしょうか。腰や首などに激しい痛みを伴い、日常生活にも影響が出てしまうこの病気は、実は人間だけの病気ではなく、ワンちゃんにも起こる病気の1つです。今回のコラムでは、椎間板ヘルニアという病気と症状、なりやすい犬種、その予防法についてご紹介します。

●椎間板ヘルニアとは

背骨（脊髄）は、椎骨と椎骨の間にあるクッションのような働きをする『椎間板（ついかんぱん）』でつながっています。この『椎間板』が老化して変形し、外に突き出してしまうたり、椎間板内にある『髄核』が押し出されたりする状態を『椎間板ヘルニア』といいます。

背骨の上には神経細胞（脊髄）が詰まった脊椎管があり、椎間板ヘルニアになるとその脊椎管内の脊髄や神経を圧迫して神経マヒを起こします。治療せずにいると、神経細胞が壊死してしまい、立てなくなってしまふ恐れもあるのです。

●椎間板ヘルニアの症状

ワンちゃんに下記のような症状が見られたら、椎間板ヘルニアの疑いがあるかもしれませんので、動物病院で診察するようにしてください。

- ◇触ると痛がる
- ◇散歩に行きたがらない
- ◇走らなくなる
- ◇腰をかばって歩いている
- ◇抱っこしたら痛がる
- ◇階段（段差）を嫌う
- ◇後ろ足がふらついている
- ◇ヨロヨロしながら歩いている
- ◇立ち上がることができなくなる
- ◇後ろ足が動かせない
- ◇自分で排泄できなくなる



●椎間板ヘルニアになりやすい犬種・状況

椎間板ヘルニアは、胸が長く足が短い犬種（ダックスフンド、W. コーギー、ビーグルなど）が発症しやすい傾向にあります。また、体重の重い大型犬などもかかりやすいと言われています。

椎間板ヘルニアにかかりやすい犬種は、骨の構造上、脊椎への負荷が大きく、さらに、元気よく跳んだり、走りまわったりするので、脊椎に大きな負荷がかかり、椎間板を傷めやすくなります。

上記の犬種以外でも、過剰な運動は椎間板ヘルニアを引き起こす原因の一つです。

背骨に強い刺激が加わるような過激な運動や、無理に首を引っ張るような運動は、頸椎（けいつい）に負担をかけることになるので避けるようにしましょう。

また、室内では、急勾配の階段の上り下り時や、ソファなど高い場所から跳び下りた時、遊んでいる最中にフローリングの床で滑ってしまった時などに脊椎に負荷がかかりやすいので、注意してください。

●予防法

- ・フリスビーやアジリティなど、脊椎に大きな負荷のかかる激しい運動をなるべく控える
- ・フローリングなど滑りやすい床には、カーペットなどの敷物を敷いて滑らないようにする
- ・階段の上り下りをさせないようにする
- ・ソファなどへの高い場所への跳び乗りや跳び降りさせないようにする
- ・抱き上げる際に、前足だけをつかんで抱き上げないようにする
- ・体重増加により背骨に負担がかかるので、肥満にならない

上記のようなことに気を配ることによって、椎間板ヘルニアになる確率を減らすことができます。

このような飼い主さんの気配りや注意が、椎間板ヘルニアを予防し病気の発生を減らすことにつながります。ワンちゃんに辛い思いをさせないためにも、日ごろの愛犬の様子をよく観察し、病気の早期発見を心がけましょ



愛犬に関するお住まい・お庭のお悩みは **庭遊館** にお気軽にご相談下さい



携帯サイトはコチラ！！

庭園工事・外構工事・管理・設計施工

株式会社 庭遊館

〒504-0945 各務原市那加日新町6-65

TEL 058-216-3110

FAX 058-216-3113

<http://www.teiyukan.jp>

